学校経営推進費　事業計画書

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立千里青雲高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	１ 外部機関の客観的学力診断テスト（ベネッセ「スタディーサポート」）における生徒学力レベルの向上 ２ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立）延べ合格者数の増加 ３ 授業アンケート、学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 ４ ICT（特にプロジェクタ）稼働率の向上、生徒の ICT（特にプロジェクタ）を活用した発表回数の向上
計画名	「ともに学び、ともに育つ　未来への階段プロジェクト」～先生・生徒が ICT で表現する学校づくり

２．事業計画の具体的内容

学校経営計画の中期的目標	１　自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成 （１）主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。 ・ 自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。 ・ ICT を活用した授業など各種工夫を取り入れた魅力ある授業をつくる。 ２　自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動の実践 （１）学校行事や部活動を通じて主体性、協同性、コミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。 ・ 共生推進教室の生徒と総合学科の生徒との交流の機会を持ち、インクルーシブ教育の推進を図る。 ・ 学校行事や部活動を生徒主体で運営することにより、自ら課題を発見し協働しながら解決していく力を育む。 （２）ボランティア活動・地域交流への取組みを促し、自己肯定感を育む。 （３）国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。
事業目標	① 今年４月の調査において昨年度、授業で ICT 活用教員が 56%に対し「もっと多くのプロジェクタが設置された場合、利用したい」と回答した教員は 81%にのぼった。こうした教職員の熱い思いを実現するため、全 HR 教室にプロジェクタを据えつけ、ICT 活用による授業の工夫改善を強力に進め「教員の授業力向上」につなげる。【機材不足が最大の問題となっている（移動式プロジェクタ９台、タブレット３台のみ）】 ② 教材の視覚化を通して「充実した質の高い、わかりやすい授業」を追求し、授業満足度を現状 51%（H31 年度実績）から３年後には 75%以上とする。 ③ 教科や総合的な探究の時間での調べ学習に活用するほか、共生推進教室生と総合学科生による協働学習の成果発表にも活用し、生徒の興味関心、学習意欲、自己肯定感を高めるとともに、豊かな表現力も備えるバランスのとれた「学力の向上」を図ることで、国公立大学・関関同立大合格者を３年後には 40 名以上にする（R２年度入試結果 19 名）。 以上を全教職員あげての事業目標として設定する。

<table>
<tr><td rowspan="7">取組みの概要</td><td colspan="2">整備する設備･物品</td><td>電子黒板機能付き液晶プロジェクタ 19 台、Ezcast PRO LAN 19 台、プロジェクタ壁掛金具 19 台、設置・調整経費 19 か所、教員用タブレット 16 台</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組内容</td><td>前年度</td><td>授業研究委員会、ICT 活用推進委員会が連携して ICT 機器活用講習会を実施・10 年経験者研修受講教員が ICT 機器を活用した公開研究授業を実施・ICT 活用推進委員会主催で ICT 機器活用 Q&A を作成・教員相互の授業見学期間を年２回実施（６月、11 月）・共生推進教室イベント実施（７月、12 月）</td></tr>
<tr><td>初年度</td><td>ICT 活用推進委員会が年間の取組計画等を提示（４月）・ICT 機器を活用している近隣の高等学校の視察、活用事例の情報交換（４月～８月）・ICT 機器活用事例資料を作成し職員会議で配付（４月～５月）・教員相互の授業見学（６月・10 月、11 月）・外部講師を招聘し、ICT 機器の活用方法、プレゼンテーション技術向上研修を実施（７～８月）・共生推進教室生と総合学科生が ICT 機器等を活用した交流会を実施（７月、12 月）・生徒が ICT を活用して総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の学習成果報告（１～２月）・教員アンケート及び学校教育自己診断で効果検証し、委員会及び各教科による次年度の計画案検討（２月）</td></tr>
<tr><td>２年め</td><td>ICT 活用推進委員会が年間の取組計画等を提示（４月）・ICT 機器活用事例資料を作成し、職員会議で配付（４月～５月）・ICT 機器を活用した授業実践（通年）・教科ごとの ICT 機器活用事例研修（７・８月）・教員相互の授業見学（６月・10 月、11 月）・共生推進教室生と総合学科生が ICT 機器等を活用した交流会を実施（７月・12 月）・生徒が ICT を活用して総合的な探究の時間の学習成果報告（１～２月）・生徒が ICT を活用して近隣の幼稚園、小中学校、大学等へ千里青雲高校での教育実践を発信（１～２月）・授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証し、委員会及び各教科による次年度の計画案検討（２月）</td></tr>
<tr><td>３年め</td><td>ICT 活用推進委員会が年間の取組計画等を提示（４月）・ICT 機器活用事例資料を作成し、職員会議で配付（４月～５月）・ICT 機器を活用した授業実践（通年）・教科ごとの ICT 機器活用事例研修（７・８月）・教員相互の授業見学（６月・10 月、11 月）・共生推進教室生と総合学科生が ICT 機器等を活用した交流会を実施（７月・12 月）・生徒が ICT を活用して総合的な探究の時間の学習成果報告（１～２月）・生徒が ICT を活用して近隣の幼稚園、小中学校、大学等へ千里青雲高校での教育実践を発信（１～２月）・<u>**生徒が全国規模のプレゼンテーション大会へ参加し、上位入賞をめざす**</u>（４～12 月）・授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証し、委員会及び各教科による次年度の計画案検討（２月）</td></tr>
<tr><td colspan="2">取組みの主担･実施者</td><td>主担者： ICT 活用推進委員会（教頭、情報科教諭２名、教務部１名、有志）授業研究委員会（校長、教頭、首席、各教科主任）
実施者： 全教員</td></tr>
<tr><td rowspan="2">成果の検証方法と評価指標</td><td colspan="2">初年度</td><td>１ 「スタディーサポート」の GTZ B２レベル以上が生徒全体の 45%以上になるようにする。（H31：42%）
２ 国公立大学および関関同立大延べ合格者数 25 名以上 （H31 年度入試実績 22 名）（R2 年度入試実績 19 名）
３・ 授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を 3.20 以上 （H30 年度実績 3.10）（H31 年度実績 3.15）
・ 学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を 60%以上（H30：52%）（H31：51%）
４ 教員の ICT 活用者を全教員の 81%以上（H30：55%）（H31：49%）・生徒の ICT 活用発表回数 200 回以上</td></tr>
</table>

	2年め	１　「スタディーサポート」の GTZ　B２レベル以上が生徒全体の 50%以上になるようにする。 ２　国公立大学および関関同立大延べ合格者数 30 名以上 ３・ 授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を 3.40 以上 ・ 学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を 70%以上 ４　教員の ICT 活用者を初年度より上回ること・生徒の ICT 活用発表回数が初年度を上回ること
	3年め	１　「スタディーサポート」の GTZ　B２レベル以上が生徒全体の 55%以上になるようにする。 ２　国公立大学および関関同立大延べ合格者数 40 名以上 ３・ 授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を 3.60 以上 ・ 学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を 75%以上 ４　教員の ICT 活用者を前年度より上回ること・生徒の ICT 活用発表回数が前年度を上回ること